



WORLD FOOD DAY

第24回 世界食料デー 仙台大会



2018年10月13日(土) 開演 13:30

日本聖公会 仙台^{きりすと}基督教會 (仙台市青葉区国分町2丁目13-15)

入場無料
席上協力献金あり

会場は「東京エレクトロンホール」の正面です。駐車場はありませんので、公共交通機関か近隣の駐車場をご利用ください。

テーマ：世界の貧困／子供の貧困 ～バン格拉ディッシュと宮城の現場から～

講演 1 『ひとりひとりが大切な存在』

- ・自分がこの世に生まれてきた意味は何なのか？
- ・『命』の価値はだれが決めるのか？
- ・生まれた環境が命の貴賤に関係してくるのか？

日本国際飢餓対策機構 (JIFH) が、25年間バン格拉ディッシュへの支援を行ってきた経験を通して、絶望から希望に変えられるプロセスについて共に考えていきましょう。

日本国際飢餓対策機構(JIFH)
伊東 綾 (いとう あや)
(東北地区担当／緊急支援担当)

名古屋市で生まれる。幼少時に、仙台に移住し、学生時代を過ごす。2011年3月11日の東日本大震災をきっかけに、JIFHへ入職し、岩手・宮城・福島の3県で、災害援助活動を行う。東日本の経験を活かし、広島、熊本、福岡、岡山の災害地に出向き、支援室運営とボランティアマネージメントに携わる。2017年より東京事務所勤務。仙台福音自由教会会員



講演 2 『一人ひとりの夢を見つめて』

里親や児童養護施設など社会的養護のもとで育った子どもたちは、成人して社会に出る段階になると、後ろ盾となる実親がいないなかで様々な困難に直面します。こうしたなかで彼ら彼女らをどのように支えていったら良いのかについて、皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。

また児童養護施設の定員を減らして、地域のグループホームや里親を増やし、実際の家庭に近い環境で子どもたちを育てていこうという、最近の社会的養護の流れについてもお話ししていく予定です。

仙台キリスト教育院
児童養護施設・丘の家子どもホーム 副園長
藤田 毅 (ふじた たけし)

神奈川県出身。東北福祉大学卒業後、仙台キリスト教育院の職員として働く。2000年、地域小規模児童養護施設かりんの家^{（仮称）}の開設により異動。6人の子どもたちと地域の一軒家で生活を共にしている。2009年、宮城県内の社会的養護に関わる有志と「子どもの夢ネットワーク」を立ち上げ、社会的養護を必要とする子どもたちのより良い育ちと自立支援のあり方を考え、居場所づくりと住居支援を行っている。



第2部として、お二人の講師とお越しいただいた皆さんを交えた話し合いの場を設ける予定です。

主催：世界食料フォーラム・仙台 / 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

問合せ：世界食料フォーラム・仙台 TEL:090-1373-3652(川上)